

デスクトップ、データセンター、クラウド間での ファイル同期 & 移行

Ivanti® File Director は、デスクトップからオンプレミスやクラウドストレージへのユーザーファイルを煩わしい作業一切なく移行、同期することを可能にし、デスクトップの移行をシンプルにし、データの分散を排除し、企業のデータの集約化されたバックアップを実現します。

煩わしさとは無縁のファイル移行

■ Windows 10 の移行から煩わしさを排除

Ivanti File Director は、スピーディーかつ安全で簡単な移行を可能にします。同じフォルダー構造が引き継がれるため、新しい Windows 10 のデスクトップでユーザーはすぐにファイルを利用できます。

■ デバイスの買い替えに対応

ユーザーファイルを簡単に復元することで、デスクトップデバイスの盗難、紛失、または買い換えにまつわるダウンタイムを排除し、break/fix（障害対応）を軽減し、マネージドサービスのコストを削減します。

■ ユーザーセッション間でのユーザーファイルのローミング

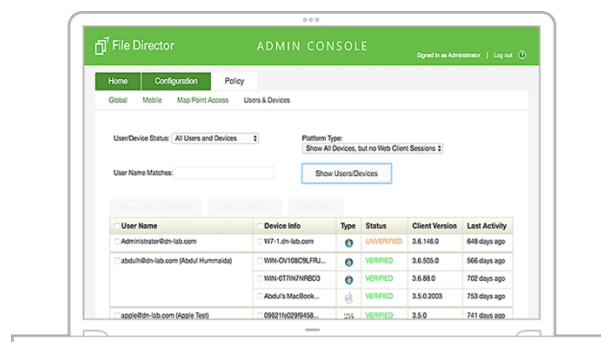
物理デスクトップか仮想デスクトップかクラウドホスト型デスクトップかを問わず、さまざまなデスクトップデバイスでのセッション間で瞬時にユーザーファイルにアクセスすることを可能にします。

■ 外出先で企業のデータの利用を可能に

ネイティブ Windows、macOS、iOS、Android、Web クライアント経由でファイルへの安全なアクセス権をモバイルワーカーに提供します。お使いの Windows デスクトップにファイルを保存すれば、瞬時にお使いのスマートフォンからアクセスできるようになります。もちろん、逆も然りです！

OneDrive ストレージの本領を発揮させる

Ivanti File Director は、OneDrive for Business ストレージのユーザー 1 人あたりに 1TB のストレージ容量を提供する Office 365 のメリットを最大限に活用できるように企業を支援します。これは、ク



ラウドへの移行を簡単にし、Office 365 環境にユーザーを慣れさせる上で役立ちます。

データセンターのストレージコストを削減

ファイルを OneDrive for Business に同期すれば、企業はユーザーファイルのためのオンプレミスストレージにかかるコストを削減できるだけでなく、オンプレミスストレージにかかるコスト自体を完全になくせる可能性があります。これにより企業は、莫大な額のインフラストラクチャコストやメンテナンスコストを削減できます。

■ IT の主導権を取り戻す

仲介の役割を担う File Director を活用すれば、IT 部門は OneDrive のストレージの利用状況を完全に把握できるようになります。さらに、特別なフォルダーや厄介なリダイレクトなくネイティブユーザーエクスペリエンスを提供することにより、ユーザーが危険かつコンプライアンスの問題の可能性につながる別のシャドーIT（個人用のデバイスを許可なく使用すること）ソリューションを利用する必要がなくなります。

「Ivanti File Director のおかげで、ユーザーは場所や使用しているデバイスを問わず、すべての個人ファイルに瞬時にアクセスできています。Ivanti File Director は当社の Windows 10 への移行に欠かせないソリューションとなっています」

— **Jeb Veters, Architect**
VGENII

データの分散を排除

File Director を導入すれば、企業はすべてのデバイスから重要な事業関連のファイルデータをすべて一元管理された場所に同期できます。これにより企業は、ダウンタイムやデータ損失、コンプライアンスの問題が原因で生じる莫大な額の費用を節減できます。

▪ 仮想プライベートネットワーク (VPN) を排除

File Director は、企業がファイルストレージにアクセスするために必要な VPN の実装を排除し、ユーザーの苛立ちの原因となる接続の問題や、IT 部門のサポートの問題をなくします。

主な機能：総合的な同期コントロール

File Director の詳細なコントロール機能により、オンプレミスまたはクラウドのストレージ（現時点では OneDrive for Business のみ対応していますが今後対応ストレージが追加される予定です）だけでなく、ユーザーが使用しているすべてのデバイスにもユーザーファイルが同期されます。同期はオンデマンドまたはリアルタイムのいずれかのニーズに応じてバックグラウンドで行われます。IT 部門は、種類、作成日時、容量、パス別に同期するファイルをコントロールできるため、企業のストレージに関連のあるコンテンツのみをアップロードすることが可能となります。

この選択式同期方法により、ローカルディスクのリソース上限やネットワークリンクが遅いことに関連する高額なストレージコストや帯域幅超過料金を生じさせることなく、ユーザーは必要に応じてファイルにアクセスできます。

File Director の効率的な差分同期は、使用中の Outlook PST ファイルなど大容量ファイルのエンドポイントからの同期を可能にし、関連のある変更のみを送信します。これにより、ネットワークトラフィックが大幅に軽減されるだけでなく、同期にかかる時間も劇的に短縮されます。また、ユーザーがデータを必要とするすべてのエンドポイントをカバーします。

主な機能：In-Location Sync（場所同期）

In-Location Sync（場所同期）は、現在のフォルダーや場所からオンプレミスやクラウドストレージにユーザーファイルを実際に同期する機能です。ユーザーの既存のプロファイル内のファイルが、リダイレクトやファイルのコピーではなく現在の場所（デスクトップ、ドキュメント、写真、ダウンロードフォルダーなど）から自動同期されます。またこの機能は、アプリケーションが以前と同じように機能することと、Windows の検索機能のインデックスがアプリケーションと変わらず連動することを保証します。

ユーザーは、同期のための特別なフォルダーにファイルを移動したり、コピーしたりすることなく、エンドポイントのローカルにある通常利用しているフォルダーにファイルを保存できます。これにより、ユーザーは自覚なくすべてのファイルの同期と移行を行うことができ、ユーザーを対象に操作に関するトレーニングを行う必要がなくなります。また、ネイティブユーザーエクスペリエンスが保証されます。

主な機能：Mapped Drive Emulation（マッピングされたドライブのエミュレーション）

通常 Windows では、ファイル共有がドライブレターにマッピングされ、ユーザーがオフラインになると共有ファイルにはアクセスできなくなります。これはユーザーの不満、生産性の損失に加え、VPN の接続やサポートに関連する追加の複雑な作業につながる場合があります。

File Director の Mapped Drive Emulation（マッピングされたドライブのエミュレーション）機能は、オフラインであってもマッピングされたドライブ上のファイルの閲覧、アクセスを可能にします。すべてのコンテンツを検索できるだけでなく、オフラインになる前にアクセスしていたファイルにオフライン後もアクセスし閲覧、編集できます。

オフラインで編集されたファイルはすべて、ネットワークに接続されるとすぐにオンプレミスまたはクラウドのストレージに自動同期されます。

主な機能：ゴースト&プレースホルダファイル

File Director 内蔵の同期メカニズムにより、ユーザーはファイルをローカルにダウンロードすることなくオンプレミスまたはクラウドのストレージで一元管理されているファイルをリストできます。特に帯域幅に制限がある接続で使用されるデバイスは、これにより、ネットワーク使用量を大幅に節減できるだけでなく、ユーザーがオフラインでファイルを検索できるようになります。

あらゆるファイルタイプのアップロードとダウンロードを再開できるため、ネットワークの停止や接続不良時のデータ損失を確実に防止できます。

主な機能：ハードニング（強化）されたデータセンター向け仮想アプライアンス

File Director は、オンプレミスまたはハイブリッド環境や完全クラウド型環境内で利用できるハードニング（強化）された仮想アプライアンスです。

File Director の仮想アプライアンスを使用することで、IT 部門はユーザーのファイルを完全に管理でき、ネットワークトラフィックを排除し、リスクを軽減し、厳しいプライバシーとネットワーク制御の遵守を強化できます。

